2020年世界情報社会・電気通信日の特別記念局8J1ITU運用報告

日本ITU友の会アマチュア無線クラブ　会長　木下（きのした）　重博（しげひろ）

1. 日本ITU友の会アマチュア無線クラブについて

特別記念局8J1ITUは以前JARL（日本アマチュア無線連盟）にPR活動を委ねてきた。一般財団法人日本ITU協会内で特別記念局8J1ITUの運用を行おうという機運が高まり2001年に“日本ITU協会アマチュア無線クラブ”を協会内で結成しJO1ZZAの呼出符号の発給を受け、2002年の5月には呼出符号の一時的な変更申請を行い、特別記念局8J1ITU運用を始めた。以降、毎年8J1ITUの運用を重ねてきたが、2013年3月に活動をさらに拡大するために協会外部の有志の協力によってITU協会が後援する外郭団体のアマチュア無線クラブ“日本ITU友の会アマチュア無線クラブ”としてクラブ名称を変更し現在に至っている。

クラブの活動の目的は5月17日の世界情報社会・電気通信日を広く世界のアマチュア無線家にPRすることである。毎年5月1日から31日までの間PRのための特別なコールサイン8J1ITUの発給を受けて記念局として運用している。

運用期間はゴールデンウィークに重なり、5日の子供の日は、会員の子供たちに参加してもらい親の活躍を見せる格

■8J1ITUシャック外観

■運用の様子

■2017年に集まったハムとその家族

好の場となった。親に同行して見学していた小学生が免許を取得してクラブに入会するなどで、当クラブの会員はこの道60年のベテランから中学生の若い会員まで広い年代の約100名ハムが在籍している。プロのCWオペレータや、当時小学生で僅か5Wの出力で南極の昭和基地と交信に成功した会員など、強者から技術レベルの高いオペレータがそろっている。

無線設備は広く海外と交信するため、茨城県かすみがうら市の丘の上に出力1kWの免許の「移動しない」アマチュア無線局と50Wの「移動する」無線局の2種類の免許を持っている。かすみがうら市の無線局には20mクラスの4本のタワーに大型の八木アンテナを設置し、1.8MHzから430MHzまでの12の周波数帯で5人のオペレータが同時運用できる無線設備がある。運用に専念できるように、無線局は小さなログハウスにまとめられ、他に宿泊施設と広い駐車場があり一度に30人ほどのメンバーが集まることができる。

2. 2020年の運用

2020年の運用準備は3月に8J1ITUの呼出符号の取得に向けた免許の変更申請から始まった。COVID-19感染の第1波が日々拡大する中で、開局準備が行われた。無線局の運用は狭い室内で声を張り上げて運用する。かすみがうら市まで県をまたいで移動しなければならないことなどの条件を考慮すると、運用の中止も1つの選択肢だった。自家用車で行って1人で運用するだけなら感染リスクは無いので移動しない局の運用は運用責任者の木下重博ただ1人で行うこ

とを決断した。

50Wの移動する局の運用は、例年通りクラブ員の自宅のアンテナを借りて持ち回りで運用することにし、お互いの連絡無しに単独で運用することにした。8J1ITUでは2種類の免許を持っているので、別の場所で同時に運用しても何ら問題は無いが、いつもの年は誤解を避けるために霞ヶ浦局と移動する局ができるだけ同じ周波数帯で運用しないようにスケジュール調整をした。2020年は少ないオペレータで運用せざるを得ないので、運用中に別の8J1ITUが同時運用する可能性を時々アナウンスすることとし、おのおのの局が独立して運用することにした。運用期間中この運用方式によるクレームは無かった。移動する局の運用の調整は会員の山田氏に運用のコーディネータを任せて、筆者はかすみがうら市の移動しない局の運用に専念した。

例年だと、4月に霞ヶ浦のシャック周辺の草刈りをクラブ員で行うのだが、2020年はそれも中止にした。

2019年の台風で50MHzの八木アンテナのロテータが破損し、同軸ケーブルが切断されて運用ができなくなっていたが、このアンテナの修理も4月中に業者に依頼して修理し、5月の連休を目前にしてようやく無線局がフルに使えるように整備された。

霞ヶ浦局は5人が同時運用できる設備を持っているが、今回はオペレータ1人限定なので、少しでも交信数を増やすために、遠隔操作で霞ヶ浦の外にいるオペレータも同時運用ができるように無線局を整備した。

2020年4月30日の木曜日夜霞ヶ浦で、筆者1人で2020年の8J1TUの開局を待った。1時間くらい前からバンドコンディションを把握する受信に入った。同時刻、移動する無線局の8J1ITUはさいたま市見沼区移動の井岡氏も自宅のアンテナで交信の準備に入った。受信を始めると14MHz帯でアンテナをヨーロッパ方面に向けても近距離のロシアの局が聞こえるだけの予想通りの悪いバンドコンディションで、5月1日の0時を過ぎて、いよいよ8J1ITUを開局しSSBモードでCQを送信するも、応答は無く、前途多難の出発となった。一方、さいたま市移動の局は国内向けに3.5MHzのCWでCQの送信を開始し、00：07JSTに関西の無線局から2020年最初の応答があった。霞ヶ浦では遅れる事3分後の00：10JSTにようやく近場のDX（海外交信）局RD8Bから呼ばれ、これが霞ヶ浦の2020年初交信となった。しかし、初日の夜は1時間粘ってたったの3交信だったが、3局目はイスラエルの記念局4Z0GAONから呼出しを受けた。SSBでヨーロッパと交信できる時間帯も終わり運用を切り上げて明日に備えることにした。それでもFT8の通信モードならまだ交信のチャンスはあるので、遠隔操作で流山市の千野氏に運用をバトンタッチした。FT8の運用も01：47JSTまで18局交信して停波した。コンディションが落ちても一番遠い交信相手はイタリアでFT8モードの活躍が予感された。一方移動する局もバンドを14MHzのCWに変えてロシアと数局交信して01：26分で停波した。ヨーロッパ方面のコンディションが悪く、ほとんど結果を残せずに初日の夜は終わってしまった。

一夜明けて、5月1日は国内通信を中心に運用し、霞ヶ浦、と移動する局はその後、順調に交信数を伸ばし、移動する局ではCWで1分間に3交信するなどして多くの局に8J1ITUの交信をサービスした。夜11時を過ぎたころから14MHzのSSBでヨーロッパ方面の伝搬が開けSSBでの最高で1分間3交信のハイピッチで交信が進み翌日の01：00JSTまで交信が続いた。短時間の伝搬だったがチャンスを捉えて交信したため初日の合計の交信数は1,193局で1,000局を超えた。

以降、5月31の閉局の日まで移動する局は品川区、板橋区、練馬区、横浜市、土浦市、川越市、鴻巣市、守谷市、松戸市、つくば市、美浦村、太田市、常陸太田市、那珂市、名古屋市など各地から運用し、霞ヶ浦の移動しない局の運用をバックアップした。

例年、最後の週末は国際的なWPXコンテストに参加して交信局数を伸ばすのだが、2020年は霞ヶ浦のオペレータを集めて運用することができないので、コンテストの参加を取りやめた。

ひと月の運用期間はあっという間に過ぎてしまい、当初危ぶまれていた1万局交信の目標は集計して見れば、15,478局と目標達成し、しかも過去最高の交信数を記録した。

霞ヶ浦の交信数は8,650局で昨年度実績には僅かに足りないが、少人数で落ち込むこと無く健闘した。霞ヶ浦の遠隔操作は2,544交信で、記録更新に一役買った。移動する局の交信数は大健闘で2019年度の交信数4,178局を大きく超える6,828局だった。

2020年のコンディションは2019年並みだったが、2020年はFT8の運用時間を増やし、合計4,338局をFT8のモードで交信した。僅か13交信だが、2020年はアマチュア用通信衛星を経由した交信にチャレンジして交信に成功した。

COVID-19が猛威を振るう中で、リスクを避けそれぞれのクラブ員がそれぞれの移動地で力を発揮していただいたお陰で、このような誇るべき記録が達成できた。会員各位のご協力に感謝します。